「三股プライド」～心と形を整える～

令和５年１１月１日（水）　ＮＯ１６　文責　木下（きした）　文秋（ふみあき）

禍福は糾える縄のごとし（かふくは　あざなえる　なわのごとし）

とても難しいことわざですが、意味は「人間の幸福と不幸は、より合わせた縄の表裏のように、交互に来るものである。良いことばかりではないが、悪いことばかりでもない」ということです。これはアナウンサーの安住紳一郎さんのラジオを聞いて知りました。私は安住さんの語りがとても好きで、時々聞いています。みんな毎日いいことがあるといいな～と思って過ごしますけど、いいことよりも悪いことの方が多い気がするし、そう簡単にいいことはありません。しかし、悪いことばかりではない。だから、毎日一喜一憂せず、平常心で生きることの大事さを教えてくれることわざだと思います。今がどんなに辛い状況であっても、前向きな気持ちでいれば必ず明るい道が開けてくるし、逆に、今がいい状況であるならば、浮かれることなく気を引き締めていきましょう。ということになります。いいことは目に見えませんが、今日事故にあわず登校できたことは、とても運が良かったかもしれないし、そういうことはたくさんある気がします。合唱コンクールが終わり、秋の地区大会も終わりましたので、行事的にはひと段落です。話は変わって「学校あるある」なのですが、不思議とこの時期には、人間同士のトラブルが起きます。長く教師をしていると、なぜか同じような時期に同じようなことが繰り返されます。恐らく学校というところは、そういうサイクルなんだろうと思います。悪口を言った言わないだとか、悪ふざけのつもりが度が過ぎたとか…。その類の事後指導をするケースが多々あります。「禍福は糾える縄のごとし」とは、いいことと悪いことは交互に繰り返される。日々を平常心で生活することの大切さを語ります。けんかもするし、些細なトラブルもあります。しかし、そういう負の循環がありながらも、『仲直りをして相手のことを理解する』また『相手の人権を尊重する』こういうことを学ぶことも学校の良さだと思います。学校は学力を付けることが当然大事ですけど、感情をコントロールする力、仲間と共に感動を共有する経験、いわば喜怒哀楽を通して、辛抱することや感謝・感激を体感することもとても大事で、その経験が社会に出て大きく役立つと思います。ところで、国外の中東では、相変わらず争いごとが続いています。麻酔なしで手術を受ける子どもがいるそうです。この子たちにこそ、本当の幸運のめぐりあわせが一日も早くあるべきです。